

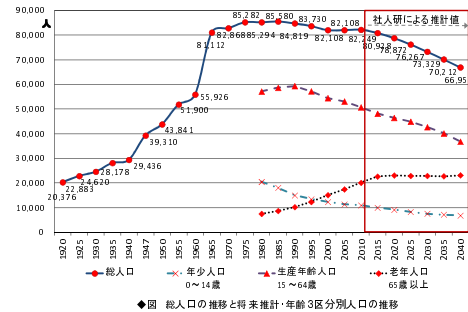
蒲郡市まち・ひと・しごと人口ビジョン【概要版】

本市における、人口の現状分析をし、平成72年(2060年)の目標人口を定めることにより、今後の目指すべき将来の方向性を提示

1. 人口の現状分析

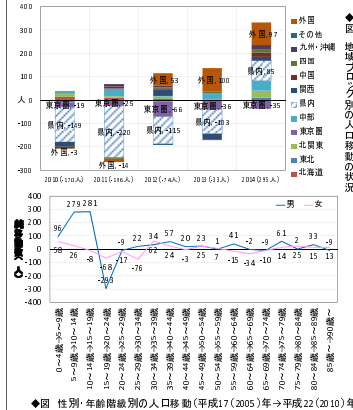
①時系列による人口分析

- 総人口：1985年時点で85,580人まで増加し、その後、82,000台まで減少、2000年以降は概ね横ばいで推移。
- 将来推計：2040年には66,000人台まで減少(社会保障・人口問題研究所推計値。以下、社人研)
- 年齢3区分別人口の推移
 - 少人口は1980年以降から減少。2040年に6千人台(構成率10%)となる見通し(社人研)。
 - 生産年齢人口は1990年代後半から減少。2040年には3.6万人(構成率55%)となる見通し(社人研)。
 - 老年人口は増加。2040年には2.3万人(構成率35%)となる見通し(社人研)。



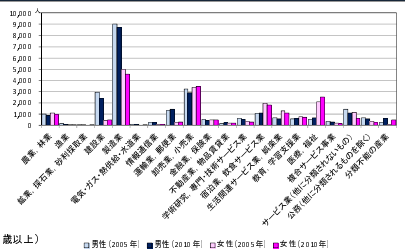
②人口移動分析

- 2013年までは愛知県内及び東京都圏への転出傾向が目立つ。
- 2012年以降は外国からの転入が目立つ。
- 2014年は県内等からの転入が増加。
- 若者世代において大学進学や就職、婚姻に伴う転出超過の傾向。



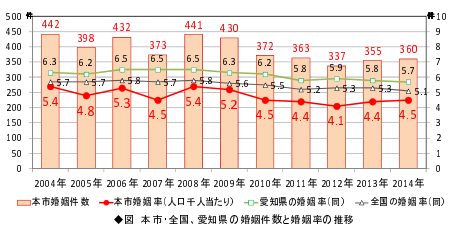
③就業の状況

- 2005年、2010年の就業者数は、男性は5%減少し、女性の就業者総数は3%減少。
- 業種別では、雇用規模が最も大きい「製造業」は男性就業者が3%減少、女性就業者が9%減少。
- 「農業・林業」はいずれも10%以上減少。
- 「宿泊業、飲食サービス業」は女性の雇用者が7%減少。
- 「医療・福祉」は、男・女いずれも2割以上増加。
- 年齢階層別では「農業、林業」、「建設業」、「宿泊業、飲食サービス業」は50歳以上の割合が比較的多く、「製造業」、「情報通信業」、「金融保険業」、「医療、福祉」は39歳以下の割合が比較的多い。



④結婚・子育てに関する動向と住民意識

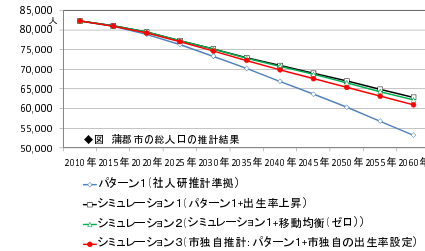
- 婚姻件数は400件台から300件台で増減を繰り返している。2010年以降は300件台が続く。
- 離婚率は5.4件台から4.1件台で推移し、全国と愛知県の離婚率と比較して低い傾向にある。
- 子育ての環境整備のために行政に期待することは、「保育園や幼稚園の費用の負担軽減」、「道路や公園など、子どもが安心して暮らせる環境整備」、「乳幼児や子どもが利用しやすい遊び場や施設の整備」が5割を超えて高い。



◆蒲郡市子ども・子育て支援事業計画より

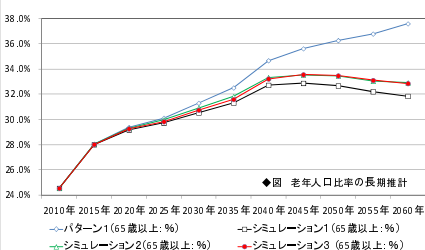
2. 将来人口推計

①将来人口推計のシミュレーション



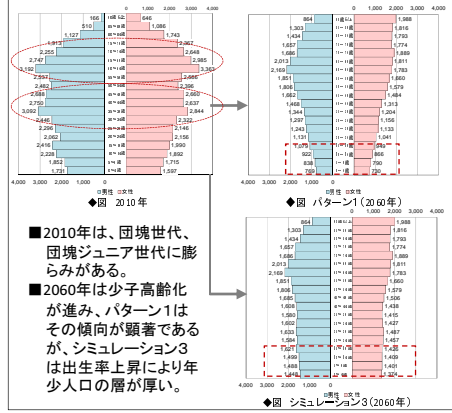
- ①パターン1:2040年人口→66,959人
※社人研推計準拠。
- ②シミュレーション1:2040年人口→70,924人
※①をベースに合計特殊出生率は国の仮定値。
- ③シミュレーション2:2040年人口→70,746人
※②をベースに人口移動が均衡と仮定。
- ④シミュレーション3:2040年人口→69,865人
※市独自推計。①をベースに合計特殊出生率を設定。(2015年1.42、2020年1.50、2025年1.58、2030年1.66、2035年1.75、2040年1.83、2045年1.91、2050年1.99、2055~2060年2.07)

②人口構成の変化



- ①パターン1：2040年以降も老年人口比率は上昇。
- ②シミュレーション1：高齢化率は2045年頃に32%程度でピーク。その後低下。
- ③シミュレーション2：高齢化率は2045年頃に33%程度でピーク。その後低下。
- ④シミュレーション3：高齢化率は2045年頃に33%程度でピーク。その後低下。

③人口ピラミッドの変化

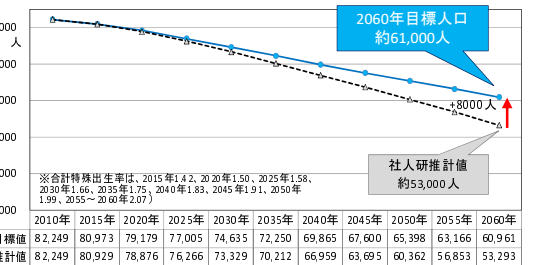


- 2010年は、団塊世代、団塊ジュニア世代に膨らみがある。
- 2060年は少子高齢化が進み、パターン1はその傾向が顕著であるが、シミュレーション3は出生率上昇により年少人口の層が厚い。

3. 人口の将来展望

①目指す将来人口

■目指す将来人口
2010年 82,249人 → 2060年に目指す将来人口 61,000人



- 将来人口の仮定
 - ・国や愛知県の合計特殊出生率の傾向を勘案し、2055年までには2.07に上昇する。
 - ・社会増減は社人研推計準拠。
- ※市独自の推計、社人研推計をベースに、合計特殊出生率を市独自に設定した場合のシミュレーション。
- ◆蒲郡市の総人口の将来見通し

②年齢区分別人口の将来見通し【2060年時点】

- 年齢構成【社人研推計】【本市目標人口】
- 0～14歳 9.2% → 14.1%(5ポイント増加)
 - 15～64歳 53.2% → 53.0%(ほぼ同率)
 - 65歳以上 37.6% → 32.9%(5ポイント近く減少)
- 年少人口比率は2010年時点よりも増加するなどにより、人口の若返りが期待される。

③目指すべき将来の方向

- ①合計特殊出生率：子どもを生み育てやすい環境づくり、安心して働ける環境づくり等により、2055年には人口置換水準(2.07)まで上昇させることを目指す。
- ②社会動向：安定した雇用の創出、居住環境の整備等により、流入人口を増加させ、安定した社会増につなげていくことを目指す。
- ③蒲郡市の目指す姿：2060年の目標人口を61,000人と定める。